

《インタビュー記録》

歴史教育体験を聞く

二谷貞夫先生

日 時：2017年8月20日・
9月9日・10月14日
場 所：長野県茅野市
聞き手：茨木智志・大木匡尚

はじめに

「歴史教育体験を聞く」の目的は、歴史教育に携わってきた先生がたの歴史教育の体験、すなわち自分が受けてきた歴史教育、そして自分が行なってきた歴史教育の話を軸として、さまざまな経験や思いをインタビューの形で聞き取り、その記録を活字にすることで、歴史教師の共有の財産とすることにある。

今回のインタビューは、二谷貞夫（にたに さだお）先生がお引き受け下さった。二谷先生は1938年、東京のお生まれで、1968年から高校教諭として世界史を担当し、民間教育団体を通じて世界史教育の活動を精力的に進める中で、教科書の執筆や国際交流の推進にも携わってきた。1982年に大学に籍を移して、1986年からは新潟県の上越教育大学において活動を展開し、それは2004年の退職後も継続している。この間に世界史や社会科の教育に関わる多くの論考を発信している。

以下は、二谷先生のインタビューの記録である。

1. 生い立ち

ー よろしく願いいたします。まず、生い立ちからお聞かせ下さい。

1938（昭和13）年6月12日に小岩（現・東京都江戸川区）で生まれました。その後、住んでいたのは本郷真砂町（現・文京区）でしたが、記憶にあるのは、浅草柳橋（現・台東区）です。後の蔵前国技館の近くで、幼稚園の頃でした。幼稚園へ防空頭巾を背中につけて往きましたね。覚えています。3月10日の空襲では隅田川をはさんで向こう側が燃えたわけです。このとき家は燃えなかったけれど、焼夷弾のふたが屋根を貫いて神棚のところに落ちて、憲兵だかが来たのを覚えています。

それで下町は危ないということで、《渋谷村》に引っ越しました。渋谷は村ではありませ

¹ 3月10日の空襲：1945年3月10日未明の米軍による空襲。東京の下町を中心に死者10万人以上といわれる甚大な被害を受けた。

んでしたが、当時の下町の人は、渋谷はタヌキやムジナの出るところだと思っていました（笑）²。松濤公園の近くの栄通2丁目2番地（現・渋谷区円山町）です。国民学校1年生になったのが4月1日で、その日から皆が学校には行きませんでした。詳しくは分かりませんが、4月1日に入学式があったことだけは確かです。授業があれば母が行かせたと思いますから、なかったのではないかと思います。大向国民学校³です。

ところが、5月25日の空襲⁴で延焼して家が焼けちゃいました。5月の空襲は花火のようにきれいでしたよ。家の前の道で空いた穴に父が足を入れたらしく「俺の足がなくなった」と叫んでいました。父はそこそ製氷会社の統制組合の事務をやっていました。

— お母さんに手を引かれて逃げたと伺いましたが。

そうでした。防空壕にいましたが、防空壕の入り口に何か落ちまして、これは大変だと飛び出しました。隣の家のもうと母屋の間を、母に手を引かれて走って逃げましたが、そこで手が離れていたら終わりでしたね。強制的に空けてあった避難場所に逃げました。焼夷弾は直接的には当たらなかったようですが、延焼で自宅も周りもすべて焼けました。

— 焼け出された後はどうされたのですか。そして、1945年8月15日はどこにいらしたのでしょうか。

それで防空壕での生活を1～2週間していたのだと思うけれど、その後、群馬の渋川に疎開をします。父の知人がいたのだと思います。そこの学校に入るのですが、机の中に蛇が入っていたりと田舎のいじめにあって、学校に行かなくなりました。その後、伊香保温泉の木暮旅館というところに、父の伝手⁵でいました。8月15日は、その女中部屋で天皇の声を聞きました。女中さんたちは正座していましたが、私は外に足を投げ出していました。なんだかよく分かりませんでしたけど、戦争が終わったということだけは分かりました。

2. 戦後の小学校

— 戦後になって東京に戻られたのでしょうか。

9月には東京に戻ったのではないかな。池袋（豊島区）に行きました。父の勤め先の専務さん宅の裏の家が空いているということで入りました。要町です。そこの小学校（国

² 渋谷村は1909年に豊多摩郡渋谷町となり1932年に東京市に編入されて渋谷区となっていた。

³ 現在の渋谷区立神南小学校（渋谷区宇田川町）。

⁴ 5月25日の空襲:1945年5月25日の米軍による空襲。東京の山の手を中心に広範囲の地域が焼失した。

民学校) 1年に入ります。要町小学校⁵と言っていました。

2年生になるときに、編入試験で豊島師範学校附属の豊島小学校⁶に入りました。後に東京学芸大学になる豊島師範学校が池袋駅の近くにありました。今の池袋劇場(東京芸術劇場)のところです。家の前に住んでいた黒澤得男さんという先生が豊島小学校の主事(校長)をしていて、一つ下の男の子が豊島小学校に入るというので自分も編入試験を受けました。当時の池袋は駅も含めて空襲で焼けていて、学校を出ると闇市でした。G I(米兵)とパンパンガール、今日的に言えば蔑称ですね、が手を組んで歩いている真ん中で育ったわけです。早熟ですね(笑)。小学校は2クラスでした。1クラスは40人いたかと思います。

— 二谷先生は国民学校初等科に入学しましたが、1947年4月の3年生から小学校になったはずです。

小学校に変わったというのは覚えていません。ここに当時の通知表などがあります。

— 拝見しますと、2年生のとき(1946年度)のものは国民学校で、「昭和二十一年度 幼児児童教育簿」となっています。興味深いのは、「国民科修身」の代わりに「国民科公民」になっているところですが、成績が付いていないので2年生では授業はなかったようです。5年生のとき(1949年度)のものは小学校で、「昭和二十四年度 教育簿」となっています。新しい教育課程になっていて、「自由研究」欄には「美術部」と書かれ、また「英語」の授業もあります。「評価」は各学期で「+2・+1・0・-1・-2」の5段階で付けられています。それから別に「自治委員」の辞令が3枚あります。

英語の先生がいて、英語をやっていました。他に何を勉強したかは覚えていないけれど、特別なことはやっていたはずで、GHQが来ていたのは覚えています。「自治委員」というのは要するに学級委員ですね。戦後のものです。

— 社会科はどのようなものでしたでしょうか。5年生では各学期「+2」の評価が付いています。二谷先生の場合は小学校3年から社会科のはずですが。

担任は2年生の途中から6年生まで同じ先生で、理科の先生でした。小学校の社会科

⁵ 現在の豊島区立要小学校(豊島区要町)。

⁶ 正式には、東京第二師範学校男子部附属国民学校初等科。現在の東京学芸大学附属小金井小学校(小金井市)。

⁷ 東京府豊島師範学校: 1943年から東京第二師範学校となり、1949年に東京第一師範学校(青山師範学校)、東京第三師範学校(大泉師範学校)、東京青年師範学校とともに東京学芸大学となった(小金井市)。

はほとんど覚えていませんが、行ったところで覚えているのは、川口（埼玉県川口市）に行ったこと。同級生の家が経営している**珓瑯びき**^{ほうろう}の工場の見学です。それから野外活動として覚えているのは、東久留米に**成美荘**というのがある、田んぼがあり、田植えや稲刈りをしました。

3. 東京教育大学附属中学校への入学

— 1951年に東京教育大学附属中学校⁹に入学されます。

中学校の入試は大変でした。倍率が高くて十何倍でした。6年生のときに、担任の先生の同級生であった先生のところに、家庭教師の代わりに勉強しに行っていました。そのときの入試は面接試験だから、面接の仕方とかしゃべり方とか。ここで算数も勉強しました。特に九九を何度もやらされました。縦横1〜9までの表を書いてすべて埋めて、それを足してというものを覚えています。

— 入試は面接だけで、筆記はなかったのですか。

筆記はありませんでした。3室くらい面接室があつて、それぞれ6人くらいの先生が採点してと、一日がかりです。豊島小からは2クラスで教育大附属中に5人が入学しました。

— 1951〜1953年度という二谷先生が中学生のときは、社会科と日本史があつた時期ですが、どのようなものでしたでしょうか。

中学校のときの通知表もあります。あまり良くありませんが（笑）。

— 拝見しますと、当時の学習指導要領の通りに1〜3年生で「社会」を、2〜3年生で「日本史」を履修しています。「学習成績の発達記録」欄については「一期」「二期」と「学年」で付けられています。評価は観点別で教科ごとに3〜4項目の「目標」があり、それぞれ5〜1で示されています。「社会」と「日本史」の観点は同じになっています¹⁰。「日本史」の教科書は『くにのあゆみ』が多かったと聞いていますが¹¹。

⁸ 成美荘：豊島師範学校が1936年に設置していた施設（東久留米市氷川台）。

⁹ 東京教育大学附属中学校：現在の筑波大学附属中学校（文京区大塚）。

¹⁰ 「歴史地理経済政治社会等の基礎的な諸概念の知識と理解」「問題解決法を用いる能力、批判的な思考をなしうる能力」「他人の必要と権利との尊重、公民的技術の習得」の3項目である（「昭和27年度 通知表 東京教育大学附属中学校」「昭和28年度 通知表 東京教育大学附属中学校」）。ただし、1951年度の「日本史」は「日本史の基礎的知識」「歴史的に対する判断力」「歴史的研究の態度」となっていた（「昭和26年度 通知表 東京教育大学附属中学校」）。

2～3 年の日本史は長野正先生でした。成績は良くないね。だいたい『くにのあゆみ』が難しくて読めないもの。1 年の社会は、中央大学から非常勤で来ていた加藤正泰先生でした。地理の授業では、加藤先生は日本列島の地図で県名と県庁所在地を示して、時刻表を使って列車がどこどこを結んだ何線だとしやべるのが好きでした。模造紙で発表もしました。3 年の社会は梶哲夫¹²先生でした。梶先生は新人で、担任でもありました。ロックの話をされていました。ホブズからロックへの、「万人の万人に対する闘争」から社会契約、そういう話だったと思います。滔々^{とうとう}とやっていました（笑）。

— 附属中学校の行事は、社会科から見て特徴的なものであったと聞いていますが。

春の遠足は、武蔵野台地を低地から高地にだんだん上がっていくものでした。1 年は浦安（千葉県浦安市）で、2 年はどこでしたか、3 年は平林寺（埼玉県新座市）でした。秋の遠足は、1 年は銚子の眺望館（千葉県銚子市犬吠埼）で、2 年か 3 年では、甲斐豆（甲斐・駿河・伊豆）でした。山本幸雄¹³先生がこのように組んだものです¹⁴。

4. 東京教育大学附属高校への入学

— 東京教育大学附属の中学から高校¹⁵へは受験ですか。

内部進学受験です。外に出た人もいましたし、外から入ってきた人もいました。中学では 4 クラス中の 1 クラス、高校では 5 クラス中の 1 クラスは外から入ってきた生徒でした。要するに、1 クラス分ずつ〈新しい血〉を入れていくという形を取っていたわけですね。

— 二谷先生が高校生の 1954～1956 年度は、1956 年に新しい学習指導要領が出ますが、1954 年度入学生には、従来の 1951 年度版の学習指導要領¹⁶での授業が行なわれていた時期になります。

¹¹ 1946 年に国民学校用に発行された『くにのあゆみ』は再版されて、新制中学校の日本史の副教材という名目で事実上は教科書として多く使用された。

¹² 梶哲夫：1925～2012 年、倫理学・社会科教育。

¹³ 山本幸雄：1890～1958 年、地理学・地理教育。

¹⁴ 関連して、山本幸雄「見学（遠足・旅行）と博物館」（東京教育大学教育学研究室編『聴視覚教育』〔教育大学講座 33〕金子書房、1951 年）がある。

¹⁵ 東京教育大学附属高等学校：現在の筑波大学附属高等学校（文京区大塚）。

¹⁶ 1951 年度版の学習指導要領：高校社会科は、1 年次に一般社会 5 単位必修で、2～3 年次に日本史、世界史、人文地理、時事問題の各 5 単位の選択科目があった。なお、1949 年度から実施されていた。

高校の通知表などもここにありますが。

- 拝見します。各教科・科目の評価は「第一期末」と「学年末」で「秀・優・良・可」などと付けられていて、それとは別に観点別に「社会」では3項目の「目標」¹⁷が立てられて5～1の数値がそれぞれあります。1954年度の1年生では「一般社会」、1955年度の2年生では「世界史」、1956年度の3年生では「時事問題」の各5単位を履修しています。担当の先生はどなたでしたか。

一般社会は斎藤弘先生です。後に、教科調査官として文部省に行きました。時事問題も斎藤先生なので取りました。斎藤先生は哲学で、話というとカントとパスカルかな。学習参考書を書いていましたので、授業のために買いました。

- 「世界史」は山本洋幸¹⁸先生でしょうか。また、教科書は何を使われましたか。

世界史は長瀬守先生でした。附属高校の世界史は、東大西洋史出身の山本洋幸先生と教育大東洋史出身の木村茂夫先生の二人でした。木村先生が教頭になったので、その時間講師として長瀬先生が来ていました。当時は東洋史の院生だったと思います。生物の部屋で授業を受けました。教科書は好学社でしたか。

- 卒業のときの「在学三年間のあゆみ」を見ると、「二谷委員会」とありますが、これは何ですか。

2年生の後期での自治会の委員長です。自分たちは自治をやるので、生徒会ではなく自治会であると言っていました。今はどうでしょうか。立候補したら無投票でなっていました。えらく文句を言われて、昼休みにフォークダンスをやったら、軟弱だとか言われました（笑）。

- 卒業後に東京教育大学で東洋史の中国史を専攻されたのは、以前から決めていたのでしょうか。

東洋史を専攻したのは、長瀬先生の世界史の授業が面白かったことがあります。中学

¹⁷ 「社会」の場合は「基礎的な諸概念の知識と理解」「問題解決及び批判的思考の能力」「公民的態度の獲得」の3項目である（「昭和二十九年度 通知票 東京教育大学附属高等学校」および「昭和三十年度 通知票 東京教育大学附属高等学校」）。「昭和31年度 通知票 東京教育大学附属高等学校」では、「観点」として「社会への関心」「思考」「知識」「技能」「道徳的な判断」の5項目となっている。

¹⁸ 山本洋幸：1922～2005年、西洋史。

でも歴史は面白かった。歴史が好きだったんですね。それから、漢文が好きでした。特に、漢詩が好きでした。唐詩の杜甫とか、李白とか。「国破れて山河あり、城春にして草木深し」にかなり魅かれました。岩波新書の『新唐詩選¹⁹』というのがあって、それをずいぶん読んでいました。1年のときの尾関先生の漢文では、答案に赤が付いて、1学期は「1」でした。それで発奮したんですね。これで東洋史に行くことになってしまいました。が、大学に入ったら全然やっていることが違いました（笑）。

附属高校では3年生になると進学先として多くの生徒が東大を選びますが、総合考査で自分の順位が出ると、これはだめだと思いました。中学・高校と勉強もせずに、バレーボールしかしていませんでした。中学では東京で優勝し、高校では関東大会まで行きました。学校に弁当箱を2つ持って行っていました。

— 東京教育大学附属高校から東京教育大学というのは、身近だったのですか。

学生が教育実習で来ていますから。だけど附属高校ではみんな嫌っていました。教育大は近かったので通うところは変わりませんね。進学は東大か早慶（早稲田・慶応）でした。私の学年では東大と慶応が多かった。教育大にいくのは少数派で、同級生でも2人くらいでしょうか。ただ、教育大は1年のときから専門科目がありましたが、東大駒場教養学部にはありませんでした。

— 受験の枠として東洋史であったと聞いています。難しかったのですか。

文学部の中で、東洋史は定員15名で、倍率が低くて7～8倍だったと思います。西洋史、日本史、英文、国文は人気がありました。受験は8科目の時代です。英語、国語があって、数学が数Ⅰと幾何で受けて、理科が生物と地学、社会が一般社会と世界史の8科目でした。現役で受けて、だめで、一浪してまた受けました。渋谷にあった予備校に通いました。午前中に行って、午後は映画館に行っていました（笑）。文学部史学科東洋史学専攻は入学しましたら、二浪が5人、一浪が5人、現役が5人でした。

5. 東京教育大学文学部史学科での東洋史専攻

— 二谷先生は1958年度から1961年度に学部で在学されていました。『東京教育大学文学部 東洋史学教室閉学記念誌²⁰』には当時の講義題目と担当者が掲載されています。どのような先生がたでしたでしょうか。

¹⁹ 吉川幸次郎・三好達治『新唐詩選』岩波書店、1952年。

²⁰ 東京教育大学文学部東洋史学教室編集発行『東京教育大学文学部 東洋史学教室閉学記念誌』、1977年。

小竹文夫²¹先生は京大出身で清代史でした。中国語が一番できたかたで、上海の東亜同文書院²²にいました。中国語学科にも教えに行っていました。担任の山崎宏²³先生は唐代仏教史で、史料講読は仏教関係でした。三蔵法師（玄奘）のも読んだし、何かもっと難しいのも読まされました。木村正雄²⁴先生は中国古代史です。専制古代国家論で歴研（歴史学研究会）で名をはせた人です。個別的人身支配という言葉を作りました。中島敏²⁵先生は東大出身で宋代史です。日本で漢文史料が一番読めた、すごい人でした。酒井忠夫²⁶先生は秘密結社の研究で、当時は若手でした。東洋史と言っても基本的に中国史研究者しかいませんでした。それ以外は色々なところから時間講師として呼んできていました。

— 二谷先生は大学3年のときに「60年安保」になります。当時、大学生であった先生がたは、みんながデモに行ったとおっしゃっていましたが。

そうですね。国会に行きましたよ。樺美智子さんが亡くなったのは、その場にいなかったんで、知りませんでした。新聞会の学生と文学部の委員長が、私の同級生でしたので、クラス決議みたいのはやりましたね。それから、授業ボイコットとか。それも交渉して、できるだけ休講にしてもらおう。だけど、休講とおもてに出すと授業時数が減るわけですから、自主休講のようなものを勝ち取るにはどうするか、みたいなことがありました（笑）。東洋史は、自主休講になりましたね。

安保の影響は大きかったです。1つ上の学年の人たちは、新島闘争に行っていました。うたごえ（歌声）運動もありました。教育大とお茶の水女子大には、鳩の会という合唱団もあって地方にも出かけて行っていました。

— 二谷先生は、どのように関わっていたのですか。

ノンポリで、全然関わっていませんでした（笑）。

— 卒業論文は、どのような研究をされたのでしょうか。

卒論のテーマは、「東林派」の政治活動についての一試論 —とくに^{こうぜい}砵税の弊害につ

²¹ 小竹文夫：1900～1962年、東洋史。

²² 東亜同文書院：清末から日本の敗戦まで上海にあった日本の高等教育機関。

²³ 山崎宏：1903～1992年、東洋史。

²⁴ 木村正雄：1910～1975年、東洋史。

²⁵ 中島敏：1910～2007年、東洋史。

²⁶ 酒井忠夫：1912～2010年、東洋史。

いて―」というものです。東林派をやろうと思ったのは、京都大の小野和子さんの論文²⁷を読んでからだと思います。このころ『東林党籍考²⁸』という東林派の人たちの名簿が印刷された本も内山書店²⁹に出ました。それを見て、こんなに色々な人が東林派に入っているんだと面白がって、やっていました。ここに掲載された史料を、東洋文庫³⁰に行って探して、当時ですから、鉛筆で書き写していました。修論では「明末砵税研究 ― その一面 ―」を書きました。

― 砵税とはどのようなものですか。

砵税は『二十二史劄記³¹』に出てくる言葉です。砵税とは何かが問題になりますが、要するに鉍山税です。ただど宦官が田畑でもここから鉍石が出ると言って、砵税として取り立てたりしました。すると官僚たちが、これはおかしいと反対して闘争する。反宦官闘争ですよ。皇帝との闘いでもあります。それは東林派の流れを汲んでいるんです。人民中国ができあがる基礎には、封建社会においても、そういう目覚めた知識階級がいて、ある程度は民主的なことを政治の上でやろうとしたと言いたかったんですね。

6. 大学院進学と就職

― 年譜³²を見ますと、1962 年 4 月に大学院修士課程に進学され、その後に博士課程に進まれて 1968 年 3 月に単位取得中退、4 月に教職に就かれています。その頃に、いくつかのものを書かれています。

「アジア・フォード両財団の東洋文庫に対する資金援助をめぐる³³」は、政治と学問、学問と資金に関わって東洋文庫に財団が金を出すのに反対する運動です。共著者の平井義晃さんは同級生ですが、たしか彼がほとんど書いたものだと思います。

「大学院学生の研究条件³⁴」は、大学院生協議会の委員だった関係で書いたものです。共著者の坂口勉さんは日本史の人で、読み合わせて書いた記憶があります。これは私の歴研での唯一の原稿ですね。

²⁷ 小野和子「東林派とその政治思想」『東洋学報』第 28 号、1958 年。

²⁸ 李校『東林党籍考』人民出版社、北京、1957 年。

²⁹ 内山書店：神田神保町にある中国専門の書店（東京都千代田区）。

³⁰ 東洋文庫：東洋学を専門とする研究図書館（東京都文京区）。

³¹ 二十二史劄記：18 世紀末にまとめられた清の趙翼による中国歴代正史の中の諸問題を考証論評した書。

³² 二谷貞夫（発行）『こみち―教育実践研究目録―』2004 年。

³³ 二谷貞夫・平井義晃「動向」アジア・フォード両財団の東洋文庫に対する資金援助をめぐる『史潮』第 80 号、1962 年。

³⁴ 二谷貞夫・坂口勉「大学院学生の研究条件」『歴史学研究』第 296 号、1965 年。

— この文の冒頭に「中国近代史を専攻するA君」の最近1週間の生活について、家庭教師や都立P高校・Q高校での非常勤、ゼミ・研究会等への出席、史料の収集・整理、雑用など詳細に紹介した上で、「アルバイトにくわれる時間とエネルギーが多過ぎる」と記載されています。この「A君」は二谷先生だと思いますが。

そうです。都立の竹早高校（文京区）と小山台高校（品川区）に行って、日本史と世界史をやっていました。ドクターの院生のときですね。ドクターに入った26歳のときに結婚しましたが、両親と一緒に住んでなければ食っていきませんでした（笑）。

— 二谷先生は院生であった1964年から「日本史」や「世界史」の授業をしていたわけですね。以前に、「世界史」を東洋史と西洋史に分けて担当したと伺ったことがありますが、それはこのときのことでしょうか。

どちらの高校だけは忘れましたが、世界史の中の東洋史を担当したことがありました。

— 『史潮』に掲載された「明代における国家権力と農村 — 明代の里甲制をめぐって — ³⁵」は修士論文ではないのですか。

修論ではありません。これは東京教育大学の大塚史学会での発表です。「国家権力と農村」というのがテーマでした。院生のとき、なぜか私が発表しなくてはならなくなり、先輩の指導を受けました。この時期は、中国史の資本主義萌芽論争の時代です。マルクスの基本的なテーゼで考えれば、封建社会を飛び越えて資本主義社会へは入らない。そして、資本主義を通らないで社会主義にはならない。だから中国にも資本主義の萌芽の時期が明末清初にあったと、中国の歴史家たちは設定しました。そちらの議論が先にありますから、明末清初よりも前の明代初期を取り上げたわけです。このときは、すごく受けました（笑）。

— 論争に一石を投じたものと思いますが、萌芽であると主張されたのですか、それとも萌芽ではないと主張されたのですか。

萌芽であるとは言っていないし、萌芽でないとも言っていない（笑）。

— 1968年に日本女子大学附属高校（神奈川県川崎市多摩区）に就職されています。

³⁵ 二谷貞夫「明代における国家権力と農村—明代の里甲制をめぐって—」『史潮』第104号、1968年。

岡本敬二³⁶先生から、日本女子大附属に行ったらどうかねと言われました。岡本先生は助手のときに学士院賞（1957 年）をもらって、当時は助教授でした。娘さんが3 人とも日本女子大附属でした。そういうので、声がかかりました。生田^{いくた}の山の中の木造校舎で、2 年間かよいました。日本史と世界史、倫理も担当しました。その後、1970 年に母校の東京教育大学附属高校に移りました。

7. 東京教育大学附属高校での世界史

— 世界史の同僚でいらした山本洋幸先生の授業は「問答法³⁷」でしたが、二谷先生はどのように授業をされていたのでしょうか。附属高校での実践では、生徒の声をどう引き出すかというのが多かったように思いますが。

私は講義一辺倒でしたね。生徒の声は、授業ノートをまわして書かせていました³⁸。クラスに2 冊ずつ、3 クラスあって6 冊でした。「ノートの左側に授業の板書事項を書きなさい。右側に感想を書きなさい。提出はその日のうちに」と。それでコメントを付けてクラスに返すと、生徒は読んで、次の人に渡します。

— 一つのテーマで1 学期が終わってしまったこともあったと伺いました。

マルコ・ポーロがどこからどこへ行って、とやっていたら、1 学期が終わったことがありました（笑）。

— 試験はどうされたのですか。

試験は普通に教科書の何ページからと（笑）。このファイルのコピーは、受験する3 年生に私が配っていたプリントと総まとめという学年末の試験問題です。この文を読んで何か書きなさいという出題です。保存してしてくれた卒業生がいて、頼んだらコピーをくれました。杉田英明君といって、今は東大の教授をしています。彼が送ってくれた本³⁹には、余計なことに高校生のときに私から聞いた話が紹介されていました（笑）。

— 他に「世界史」で印象に残っていることをお聞かせ下さい。

³⁶ 岡本敬二：1920～2011 年、東洋史。

³⁷ 山本洋幸『いま授業で困っている人に』（高文研、1986 年）などがある。

³⁸ 二谷貞夫「高校世界史での一つの試み—交替で授業ノートをとらせる—」『歴史地理教育』第 264 号、1977 年。

³⁹ 杉田英明『アラビアン・ナイトと日本人』岩波書店、2014 年。

星村平和先生が集めたメンバーで、学研の世界史のスライドを作りました⁴⁰。全7巻の中のイスラム文化圏を担当しました。これがそうですが、私としてはよくできているつもりです。いい勉強になりました。

— 拝見しますと、この巻は、80コマで、それぞれ解説が付いています。星村先生からのご指名ということですが、二谷先生がイスラム文化圏を担当したのはなぜですか。

他に誰もいなかったからでしょう。星村先生とは史料集や他の本も作っていました。星村先生編集の『文学作品を利用した世界史学習⁴¹』にも、私はトルコのナスレッディン・ホジャ物語などを書いていました。

— スライドのイスラム文化圏の巻では、マホメット（ムハンマド）以前のところで文化的なもの（「イスラム世界の風土と人々」）を持ってきてから、「東南アジアのイスラム化」でしめくくっています。スライドの写真を選んだり、解説文を書いたり、基本的にお一人で、ですか。

そうです。日本にはイスラムのものはあまりなかった時期ですよ。いい写真を探すのは大変でした。私もイスラムづいていた時期でした。22～28番にありますが、こだわっていたのは「千夜一夜物語の世界」でした。それから、31番に「インド洋上の貿易船」としてダウ船を入れましたが、この頃、これに凝っていました。

— スライドのイスラム文化圏のものと、二谷先生が取り組まれたインド洋世界のことはつながっていますか。

青年の船で1976年にクウェートにまで行ったことが影響しているかもしれません⁴²。附属高校の教頭をしていた斎藤弘先生から「行ってこい」と言われました。これでインド洋世界を書く気になりました。

— 青年の船では、何が一番印象にありますか。

インド洋です。まったく違いました。波が立たない日があるんです。風もなく、風

⁴⁰ 学研映像部『学研スライド 社会科 精選・資料世界史2 イスラム文化圏—その形成と展開』（木村尚三郎監修、星村平和指導協力、二谷貞夫指導執筆）学習研究社、1978年。

⁴¹ 星村平和編著『文学作品を利用した世界史学習』学事出版、1976年。

⁴² 二谷貞夫「クウェートを訪ねて」『歴史地理教育』第311号、1980年。総理府第9回青年の船は1976年1～3月に実施された。

の音も波の音ありません。そうすると、船のスクリューのカラカラカラという音しか聞こえません。海がいくつもお盆を置いたようになります。すごいなあと思いました。それが夜になってもそうで、気持ち悪いくらいでした。向こうから本当に海坊主が出てくるんじゃないかと感じました。凄い旅でした。それで、教科書にインド洋世界を書いたり、紀要に論文を書いたりしました⁴³。

8. NHK通信高校講座・世界史

— 附属高校にいらしたときに「世界史」を担当された、ラジオとテレビのNHK通信高校講座（現在のNHK高校講座）についてお聞かせ下さい。

たしか、大江一道さんに誘われて参加しました。ラジオが先でした。毎年、一度みんながNHKに集まって、各自がどこを分担するか、打ち合わせをしました。綿引弘先生も、東洋史の先輩ですが、ご一緒しました。テレビは1977年から81年かと思います。手元に残っている当時の台本は、これです。

— 拝見します。ガリ版刷りで、表紙の録画日を見るとだいたい土曜日の午後か夜になっています。台本では進行にしたがって映す画像とセリフが記載されています。「CR」・「VTR」とは、カメラリハーサルと録画でしょうか。朗読もあります。修正している箇所もあります。毎回、大変な手間ですが、台本は先生が書いているのでしょうか。

素原稿は書いています。時間は29分30秒でした。1回に2本撮っています。朗読は別でした。1回リハーサルをして手直しして、本番で撮ったものをそのまま登録して流します。編集とかはありません。ラジオの場合は、1分200字くらいの結構ゆっくりしたペースで読みました。

— 台本に「ビクトリア女王」などとあって、画像や映像が映されるようですが、それは先生が選ぶのですか。

そうです。この本のここからなどと指示をします。映像があれば、ありがたいですよ、しゃべることが少なくなって。それは探してもらいます。要求しても出てこないものもありました。今ここにあるインド国民会議派の旗は、このときにNHKで作ってくれたものです。

⁴³ 二谷貞夫「世界史におけるインド洋世界の設定：世界史教育における世界史構成に関する一試論」（『筑波大学学校教育部紀要』第6号、1984年）など。

要するに、どうやって、なるべく自分が映るのを少なくするというのが課題でした。自分の顔だけが映るのが、一番具合が悪いわけです。29分30秒のうち、自分が出てくるのは5分くらいでいいわけで、あとは色々なものがあつたほうがいいんです。

— 私（茨木）は、二谷先生が対馬で説明していた放送を印象深く覚えています。

プロデューサーと二人で、行きは船で、帰りは飛行機でした。世界史で朝鮮通信使を取り上げて万松院⁴⁴などで撮りました。あのときは対馬から韓国が見えて驚きました。

— 目の前に生徒がいなくて、やりにくいということはなかったですか。

やりにくいんです。どうしたらいいかと言っていたときに、教育心理の波多野完治⁴⁵さんが、知人のお父さんなのですが、電話くださって、「二谷さん、前に生徒が一人いるつもりで話をされるといいですよ」と教えてくれました。

— 普段やっていた授業をやろうとしたのでしょうか、それとも普段やれない授業をやろうとしたのでしょうか。

普段はやれない授業です。ただ、やりにくかったので、普通の授業のほうがよかったですね。できるだけ、同じことをやらないほうがいいので、昨年持ったところは今年はやらないのが基本でした。大変でしたね。

9-1. 実教出版『高校世界史』（1979年発行）の執筆

— 1979年に発行された実教出版の『高校世界史⁴⁶』について伺います。二谷先生は、7名の執筆者の一人ですが、全員が中学・高校の先生ですね。

これは附属高校にいたときで、東京歴教協（東京都歴史教育者協議会）の世界部会のメンバーです。世界部会はかなり独立してやっていました。大江一道さんが「いつまでもこんな研究会をやっているのはだめだ。教科書を書きましょう」と言いだしました。それで、実教出版で書くことになって、1974年から実教出版の会議室を使って、研究会を続けていました。それで何も書かずに何年か経ったところで、しびれを切らした実教出

⁴⁴ 万松院：対馬の宗氏の菩提寺（長崎県対馬市厳原）。

⁴⁵ 波多野完治：1905～2001年、心理学。

⁴⁶ 吉田悟郎・鈴木亮・大江一道ほか4名『高校世界史』実教出版、1978年3月31日検定、世史439、1979～1983年度使用（教科書については、著作者、書名、出版社、検定年月日、教科書番号、使用年度を記載する。以下、同じ）。著作者は他に、槐一男・二谷貞夫・鬼頭明成・石渡延男である。

版の偉い人が現われて「いつになったら文字になるんですか」と言われました（笑）。

— この教科書は1978年3月31日付けで検定を通過して、1979年4月から使用されました。発行までご苦労があったと聞いていますが、まずは執筆についてお聞かせ下さい。

ヒンデミット⁴⁷の『作曲の手引き』という本があって、その考え方を大事にして教科書を作ろうと言っていました。ヒンデミットは、教科書というのは、生徒と教師の間にはさまって最もビビットに捉えられるものでなければならないと言っています。この教科書は、互いに読んで学び合ったときに、客観的でいきいきとしたものが伝わるように書きましようというのが申し合わせ事項でした。このことを指導書の最初に鈴木亮⁴⁸さんが書いています⁴⁹。

それから、この教科書を作るときに2つのテーマがあって、一つは、繰り返しを多くすることです。もう一つは、できるだけ関連するページの注を入れることです。つまり、ここを見たときにはこっちも見なさいよと。この2つがないと関連性が出てこないからです。

日本史をこんなに書いている世界史の教科書はないでしょうね。日本史と世界史の統一的把握の問題があります。實際上、教科書の中でどのように書くのかということで、日本史の鬼頭明成さんが入っています。

— 教科書なるものを変えようという意図はありましたか。

それはありましたよね。太文字は絶対に作らない。読める教科書にしたいと。

— 1979年の『高校世界史』は4つの部で構成されており、前半の第1部「前史」・第2部「本史Ⅰ（1）」は、それぞれ「東アジア世界」「東南アジア世界と南アジア世界」「西アジア・北アフリカ世界」「ヨーロッパ世界」「アフリカ世界」「アメリカ世界と太平洋世界」「北方ユーラシア世界」の7章だとなっています。後半の第3部「本史Ⅰ（2）」・第4部「本史Ⅱ」は産業革命・市民革命から、そして第1次世界大戦からとなっています。非常に独創的な世界史教科書の構成となっています。

⁴⁷ ヒンデミット (Paul Hindemith) : 1895～1963年、ドイツ出身の音楽家。下総統一訳『作曲の手引』（音楽之友社、1953年）が発行されている。

⁴⁸ 鈴木亮：1924～2000年、世界史教育。

⁴⁹ 鈴木亮「理論篇1 客観的でいきいきした教科書を」実教出版編修部編『高校世界史 指導書』（世史439教師用指導書）実教出版、（1979年）。

最初の教科書原稿は、これとは違って、全部を縦割りにして、4つの部をすべて9地域(9章)に分けて現在まで通して書きました。「東南アジア世界と南アジア世界」と「アメリカ世界と太平洋世界」は最初原稿のときは分けていて、合計で9地域でした。

縦割りで書いたのは、積極的にそれぞれの地域が主体的に生きてきたということを出したいという意図からです。それがヨーロッパ中心史観の世界史を修正していく、あるいは変えていく役割を持つだろうということでやったわけです。それは上原専禄⁵⁰の13地域論を活かしていこうという意図でやりました。これで白表紙本を作って検定に出しましたが、不合格になりました。

— すると、次年度に再度提出したのでしょうか。

実教出版から「これをそのままボツにはできない。すぐに直すように」と言われて書き直しを迫られました。75日以内に書き直した白表紙本を提出する必要がありました。大変でした。

— それで、前半の2つの部を9地域から7地域にまとめて、後半の2つの部を横割りの構成に書き直したというわけですね。上原専禄先生は13地域論でしたが、それを9地域にしても駄目だったということでしょうか。はじめに9地域にしたのはどなたですか。

吉田悟郎さんです。7地域になりましたが、吉田さんが書いた「北方ユーラシア世界」は生きていると思います。

9-2. 実教出版『高校世界史』(1979年発行)への検定

— 再提出した白表紙本はどうなったのでしょうか。

「条件付き合格」となりました。翌年(1978年)2月に執筆者全員が文部省に行って教科書調査官から「条件」を聞きました。すべて口頭です。1日では足りずに2日間かかりました。鈴木亮さんが『大きなうそと小さなうそ』に書いていますが、「すれすれ合格」と言われました⁵¹。そのときに私がメモをした白表紙本がこれです。

— 拝見しますと、奥付はなく、表紙は白い紙で「高等学校／社会科／世界史／第1～3学年」(斜線は改行)と印刷されていて、そこに「(条件付き合格本)」と手書きで書か

⁵⁰ 上原専禄：1899～1975年、歴史学・世界史。

⁵¹ 鈴木亮『大きなうそと小さなうそ—日本人の世界史認識—』ほるぷ出版、1984年、228頁以下。

れています。背表紙には縦書きで「高社 世界史 第一―第三学年」と印刷されて、手書きで「第二回」と書かれています。とびらは白紙でそこに「1977. 12 再提出」「78 2/27 合格条件提示 (文部省)」「2/28」と手書きで書かれています。中を見ると、多くのページに手書きのメモがあり、そこに「A」や「B」とも書かれています。

「A」は直さなくてはいけない(「A条件」)、「B」は直さないなら意見書をつくる(「B条件」)という教科書調査官による検定の指示です⁵²。私が書いたのはメモ書きですが、実際にはもうちょっと詳しく言っています。

— ほとんどのページに「A」「B」という検定の指示のメモが書かれています。指示の文言のメモもありますし、用語や文章にしるしを付けて「不要」「不必要」「必要なし」、「正確」、「程度」、「表現」と書かれたものもあります。とても細かく意見が付いています。欧米や中国の歴史ではない、アジアやアフリカの歴史の具体的な人名や事項に「不要」が多いように見えます。「マホメット (ムハンマド)」の記載には、「(ムハンマド)」にしるしが付けられていて、「必要なし B」とあります (39 頁)。

結局は、ムハンマドになりましたよね (笑)。思い出しましたが、山川出版の『世界史用語集』で掲載教科書数が7つか8つ以上のものは必ず載ってなければいけないとか、教科書調査官が言っていました。逆に、数が少ないものは載せるなども。

それから、1982年に中国や韓国から日本の教科書検定が批判されて教科書問題となりましたが、この白表紙の原稿は「日本の中国侵略」と書いて、検定で「侵略」を修正するように言われたものです。

— 再提出した白表紙本の第4部・第2章「世界恐慌と第二次世界大戦」の第2節のタイトルである「§ 2. 日本の中国侵略と抗日運動」の「侵略」にしるしが付けられて「A」とあります。そのわきに「侵入」「進出」と書かれていて、「進出」のほうは消されています (264 頁)。

「A」というのは「侵略」という言葉を使うなという修正の指示です。最終的には「侵入」として検定を通しました。

— 教科書問題が起こったときに、ご自身が受けた検定が問題になっていると思われましたか。また、日本のことのみが「侵略」と書かれている点の指摘であったとも、修正を強要していないとも言われていますが。

⁵² 1978年度の小中学校教科書の検定からは「修正意見」「改善意見」と呼ばれるようになる。

これが問題になっていると思いました。発行された教科書では日本以外の「侵略」はありますし、「A」は1か所でも修正しないと検定を通りません。検定により「侵略」を書き換えたことは確かです。このことを記録に残してほしいと思います。

— この白表紙本については後日に詳しくお話を伺えればと存じます⁵³。

9-3. 実教出版『高校世界史』について

— 二谷先生が関係した実教出版『高校世界史』は、その後2回改訂されて発行が継続されました⁵⁴。大変に興味深く貴重な試みであったと思いますが、お使いになって実際どうでしたでしょうか。また、どのような意味や課題があったとお考えですか。

教科書は3万部が出なくては経営的に成り立ちませんが、最初の年は3万をちょっと超えたくらいだったと思いました。1回採用したところからも、使いにくいという意見がだんだん上がってきました。それはなぜかという、一つには原始社会がないからと言われました。原始社会を置くのは、すでに発展段階論でしょう。そんなものは必要ないじゃないかと言っているのに、どうしても無階級社会をやりたいのですね。世界史は自分たちで作っていくものなのということが分かっている先生でないと。

— 上原専禄先生が世界史の起点を13世紀に求めたことに関わりますか。

あれは別に13世紀でなくて、8世紀でもいいんです。つまり人類史と世界史は別物だということが言いたかったわけです。それから最初に東アジアばかりがずっとあるでしょう。上原専禄の13地域論を活かしていこうという意図でしたが、やはり地域論はあまり生きていないかと思いました。生徒からは「いつになったらヨーロッパが出てくるのですか」という声が聞こえてきたこともありました（笑）。

— 古代オリエントからではなく、東アジアから始まっているのは、これも上原専禄先生の『高校世界史⁵⁵』を意識して日本とのつながりからまず世界をという考えですか。

⁵³ 実教出版『高校世界史』の1977年度の白表紙本（第2回）に関わる検定については、2018年5月26日・27日に聞き取り調査を実施した。この「インタビュー記録」においてもその聞き取りの一部を収録した。

⁵⁴ 吉田悟郎・鈴木亮・大江一道ほか『高校世界史』実教出版、1983年3月31日検定、世史016、1984～1986年度使用。および、同『高校世界史 改訂版』実教出版、1986年3月31日改訂検定、世史046、1987～1995年度使用。

⁵⁵ 上原専禄監修『高校世界史』実教出版、1955年9月13日検定、高社1060、1956～1958年度使用。本書の改訂版は、2度にわたる検定不合格に抗議して一般書として発行されたことで知られる（上原専禄監

そうです。先入観というか、オリエント・ギリシア・ローマという形で進んでいく世界史像は簡単に崩れるものではないというわけですね。

それから、1987年の改訂版を出すときに、教科書の最後のところに書き足すように言われて、「わたくしたちの課題」という小見出しの文章を書きました。その課題というのを、平和と自由、民族の独立、国民文化と国民教育の創造と並べて結びました。これは、上原専禄の諸課題のことを念頭に置いての文章でした。世界史教科書については、その後手掛けた一橋出版のものも含めて、まとめておきたいと考えています。

10-1. 歴史教育者協議会

— 歴史教育者協議会（歴教協）について、お聞かせ下さい。

歴教協へは、1970年に附属高校に勤めてからですね。文京歴教協（東京都歴史教育者協議会文京支部）に行きました。文京歴教協は新大塚にある歴教協の事務所を使って例会をしていました。そこに本多公栄⁵⁶さんがいました。本多さんは文京二中（現・本郷台中学）の先生で、歴教協の事務局長であると同時に文京歴教協でも活動していました。それ以前に日中友好協会文京支部というところに行っていましたが、そこにもたしか本多さんがいました。日中友好協会は中国の文革（文化大革命）を支持する・支持しないで分裂したりと大変でした。

— 二谷先生は、歴教協の『歴史地理教育』や『歴史教育月報』に1974年から執筆されていて、現在まで多くの論文や報告などを寄せています。二谷先生の教育や研究にとって、歴教協はとても大きなものであったと存じますが。

附属高校にいたときの活動は歴教協ばかりでした。吉田悟郎⁵⁷さんの影響は大きいですね。

— 上原専禄先生に関わっても、歴教協を通じてでしょうか。

高校生のときに『世界の見方』（理論社、1957年）を読んでいて、大学生のときに『日本国民の世界史』（岩波書店、1960年）を買いましたが、それより歴教協に参加してから講演などを読んだことが大きいかなと思います。

修『日本国民の世界史』岩波書店、1960年）。

⁵⁶ 本多公栄：1933～1995年、社会科教育・歴史教育。

⁵⁷ 吉田悟郎：1921～2018年、世界史・世界史教育。

— 直接、お話を聞く機会はなかったのですか。

ありませんでした。でも、実は小学生か中学生のときに学校で講演を聞いていたことを会報が何かで知りました。まったく覚えていませんが（笑）。

— 世界史について考えるようになったのは高校の教師になってからになりますか。

そうですね。中国史を研究していたときは考えていませんでした。歴史学から歴史教育に切り替わっていくのは、附属高校の紀要にヨーロッパ中心史観の脱却について書いた頃からだと思います⁵⁸。このへんがスタートですね。同僚から「何をヨーロッパ中心史観というか、はっきりしない。世界史はヨーロッパが動かしてきたことは、はっきりしているが、どうか」と言われましたね。

1960年代の上原専禄と遠山茂樹⁵⁹を取り上げたことがありました⁶⁰。遠山はあくまでも世界史の基本法則を追求する立場でした。上原はそうではなく、課題化認識による世界史像の自主的形成を主張しました。ここに明らかに歴史教育、世界史教育の目標の違いがあるような気がしていました。上原が歴教協大会（1964年）で報告した「歴史研究の思想と実践⁶¹」を大事にしないとイケないと、いつも言っていました。

10-2. 比較史・比較歴史教育研究会

— 比較史・比較歴史教育研究会（比較史研）は、研究会の活動年譜によると、1982年12月に第1回会議が東大駒場で開かれて、「成瀬治を代表とし、吉田悟郎事務局代表他7名の事務局員選出」とあります。比較史研は2015年に最後の本⁶²を出して、閉じましたけれど、二谷先生は創設のときからのメンバーと存じます。

そうです。もともとは日米歴史学会議（1983年3月）⁶³に向けての集まりとして始ま

⁵⁸ 二谷貞夫「『世界史』構成の諸点をめぐって（その1）—19世紀的なヨーロッパ中心史観の脱却について—」『東京教育大学附属高等学校研究紀要』第14巻、1972年。

⁵⁹ 遠山茂樹：1914～2011年、日本史。

⁶⁰ 二谷貞夫「自国史と世界史—その課題を求めて—」比較史・比較歴史教育研究会編『自国史と世界史—歴史教育の国際化をもとめて』未来社、1985年。

⁶¹ 上原専禄「歴史研究の思想と実践」『歴史地理教育』第102号、1964年。

⁶² 比較史・比較歴史教育研究会編『『自国史と世界史』をめぐる国際対話—比較史・比較歴史教育研究会30年の軌跡—』ブイツーソリューション、2015年。発言中の引用は、同書の「研究会の活動に関する年譜」（鳥山孟郎作成）による。

⁶³ このときの報告は、高山博之・二谷貞夫「初等・中等教育におけるヨーロッパ史教育—その発想と視点—」として比較史・比較歴史教育研究会編『自国史と世界史—歴史教育の国際化をもとめて—』（未来社、1985年）に掲載されている。

りました。その後、吉田悟郎さんや西川正雄⁶⁴さんを中心に研究会を続けて、4回の東アジア歴史教育シンポジウムをやりました。はじめの頃は、私がいた大塚の筑波大学学校教育部で会議をしていました。大塚の校舎には使える教室がいくつもありました。

— 二谷先生が1982年7月に附属高校から筑波大学学校教育部（東京都文京区）に移られた頃ですね。

学校教育部には4年ほどいましたが、本当にいいところでした。部屋はあるから会議はできるし、授業はないので（笑）、自由に活動ができました。学校教育部は附属関係の取りまとめが仕事ですが、筑波に行かない残留組の人たちがいました。他に教育相談部もありました。素晴らしい人たちがいて、よかったですね。

— 比較史研は、第1回東アジア歴史教育シンポジウムを1984年8月に開催しています。二谷先生ご自身は日中の歴史教育交流の始まりと位置づけています。大学や既存の学会とは全く関係なく開催されていて、色々のご苦労があったと思いますが。

はじめは日中で考えていましたが、そこに韓を入れて日中韓にしたのは、西川正雄さん、横田安司さん、二村美朝子さんたちです。シンポジウムの内容は編集して本にしました⁶⁵。編集などの実務は私もやりましたが、けっこう中心になったのは二村さんですね。最初の第1回のシンポジウムは大変でした。

— その後、第2回、第3回、第4回と続きます⁶⁶。私（茨木）は第2回以降に参加しましたが、国交のない国の研究者たちが一堂に会しての討議など、今から思いますと、すごいことをしていたのを自分は見ていたと改めて感じています。

本当は、今こそやるべき時期なんですけどね。北朝鮮から呼んだときは特に大変でした（第2回）。入国手続きも外務省に行ってやりました。

11. 中国との歴史教育交流

— 比較史研のお話でも少し伺いましたが、改めて日中の歴史教育交流にお聞かせ下さい。交流の発端はどのようなものでしたか。

⁶⁴ 西川正雄：1933～2008年、西洋史。

⁶⁵ 比較史・比較歴史教育研究会編『共同討議 日本・中国・韓国「自国史と世界史」 東アジア歴史教育シンポジウム記録』ほるぷ出版、1985年。

⁶⁶ 東アジア歴史教育シンポジウムは、第2回が1989年8月、第3回が1994年8月、第4回が1999年12月に開催された。

最初に行ったのは、1985年8月に北京での歴史教学研究会でした。斎藤秋男⁶⁷さん、吉田悟郎さんと一緒に3人で行きました。

その前に、斎藤さんとどこだかの階段で坐って話をしていた、中国と交流しようよということになりました。斎藤さんとは、歴教協に研究委員会というのが一時できたときに知り合いました。兵隊として中国にいて、敗戦で除隊して、しばらく中国に残っていた後に、帰国して中国研究所にいたりして専修大学の先生をしていました。

中国に歴史教学研究会ができたのが、文革が終わっての1981年でした。歴教協と歴史教学研究会を結んでいこうということで、人民教育出版社で歴史教学をやっている人たちを呼ぶことになりました。

ちょうど、比較史研でシンポジウムを開催することになりました（前述）。そこに中国から呼ぼうという話になり、蘇寿桐さんを団長とする3名を招きました。それで韓国からも呼んでとなりましたが、朝鮮の人たちがいないのはおかしいということになって、でも北朝鮮の人たちは直接は来られなかったわけだから在日の研究者に加わってもらって、第1回の東アジア歴史教育シンポジウムをやりました（1984年8月）。

そして、翌年の1985年8月に北京での歴史教学研究会に3人で出席しました⁶⁸。比較史研だけでなく、歴教協の常任委員会でも「行ってらっしゃいよ」ということになりました。

— 北京での研究会では、二谷先生は「児童・生徒の歴史認識と歴史学習」の報告とありますが、反応はいかがでしたか。

発表が終わったときは大変でした。聞いていた人たちがワーンと私の周りに押し寄せてきました。なぜかというと、子どもの声を発表したわけです、授業感想を。日本の教育でそんなことがやられているということ、向こうの現場の人は知らなかったわけです。自分たちは黒板で書いてしゃべって終わっている、生徒の声を聞くような授業があるんだ、授業というのはそういうものなんだと驚いて、どのようにやってるんだと押し寄せてきました。私は中国語ができないから通訳の人が大変でした。

— 中国の先生たちはお酒のやり取りが基本で、最初のときに二谷先生が一人で“わたりあった”とも伺いました。

あちらは〈乾杯〉（杯を乾す）だもの、強い酒で。全員の杯を受けなくてはいけないみ

⁶⁷ 斎藤秋男：1917～2000年、中国思想・教育史。

⁶⁸ 斎藤秋男・二谷貞夫「〈北京・歴史教育シンポジウム〉参加報告」『歴史地理教育』392号、1986年に内容が紹介されている。

たいな感じでした。斎藤さんや吉田さんは駄目でした。飲んだがために、あちらに気に入られました。翌日は、朝から気持ち悪くて、万里の長城を歩いて、やっと元気になりました（笑）。

— 今も歴教協で日中の歴史教育交流は続いています。

行き来を繰り返しました。往復の旅費は自己負担で、滞在はそれぞれが面倒を見るという方法です。

— 中国から来る人たちは偉い先生がたという感じがありましたが。

それは中国の研究会とか学会は、国家機関だからです。こちらは民間教育団体でしょう。民間教育団体というものを理解するのに中国側は時間がかかりました。政府と関係ないものがあるんだということを、さんざん説明しました。あの人たちは全部国が会計してくれていますから。「先生がたの宿泊費は、私たちがカンパで集めてお出ししているんですよ」と。それを理解してもらえるようになったのは、かなりたってからです。

上越教育大学に行ってからですが、1 か月ほど中国にいて、重慶の奥にある北碚（重慶市北碚区）の西南師範大学と北京の北京教育師範学院（現・首都師範大学）で講義をしたこともありましたが（1987 年）。

12. 上越教育大学への着任と『世界史教育の研究』

— 年譜によると、二谷先生は1986年9月に筑波大学学校教育部から上越教育大学（新潟県上越市）に移られています。

けっこう急な話でした。梶哲夫先生から「朝倉（隆太郎）⁶⁹先生を手伝いに行ったら」と言われて、「手伝いですか」と答えたのを覚えています。梶先生は中学の担任でしたから逃げられませんでした（笑）。それで夏休みが終わって、上越の南新町にある新築の宿舍に夫婦で行きました。

— 二谷先生の『世界史教育の研究⁷⁰』は上越教育大学に行かれて間もなくの著作になります。当時、世界史教育の研究という真正面のテーマの本はとても珍しく、話題になりました。

⁶⁹ 朝倉隆太郎：1921～2001年、地理学・地理教育。

⁷⁰ 二谷貞夫『世界史教育の研究』弘生書林、1988年。

朝倉先生から昇任のこともあるから本を出せと言われて、アッという間に1冊発行しなくてはなくなりました。それで、次々に何でもかんでも載せて、本にしました(笑)。

- 1982年発行の『講座・歴史教育』に書かれた論文「歴史教育論・実践論の展開⁷¹⁾」は収録されていませんが、この論文での提起をまとめたのが『世界史教育の研究』であるという位置づけになると受けとめていました。いかがですか。

たしかにそうですね。この論文テーマは編者の加藤章⁷²⁾先生から降ってきたものでした。4ページにわたって一人の生徒の答案の全文を引用しましたが、これを載せたいがための論文でした。産業革命と市民革命の時代について、1790年のパリのカフェとカルカッタ(現・コルカタ)の酒場での庶民の対話を通じて叙述した答案でした。

13. 「世界史」学習指導要領の作成協力者からの除名

- 高校社会科が解体(再編)されて地理歴史科と公民科になった1989年3月告示の学習指導要領作成のときに、二谷先生は「世界史」の作成協力者であったのが、文部省によって外されたということを伺いました。

学習指導要領の協力者会議が開かれて、協力者全員の第1回会議に出ましたが、その後で文部省の高校課長が、だと思いましたが、上越の南新町の自宅に、夜に電話をして来て、「もう2回目からは出ないでいいです」と言われました。学習指導要領を書く前ですから、私は書くのに参加はしていません。

- 電話1本の口頭だけですか。また、理由はなかったのでしょうか。

口頭だけです。日社学(日本社会科教育学会)で反対声明を出したでしょう。「そのことですか」とかは聞いたんじゃないかな。

- そうしたら、そうだとされたのでしょうか。また、当初はどういう経緯で協力者に参加されたのでしょうか。

そうだとのことでした。上越教育大学の朝倉隆太郎、加藤章、二谷は外されると。私が協力者に入ったのは、星村平和先生から声がかかってだったと思います。

⁷¹⁾ 二谷貞夫「歴史教育論・実践論の展開—歴史意識形成の視点から—」加藤章ほか編『講座・歴史教育2 歴史教育の方法と実践』弘文堂、1982年。

⁷²⁾ 加藤章：1932～2016年、日本史・歴史教育。

— 当時、強引な進め方での高校社会科解体の決定に批判が出されていましたし、高校社会科の協力者であった朝倉隆太郎先生たちの抗議の辞任は大きく報道されました（1987年11月）⁷³。日社学の反対声明（要望書）に関わった人物が作成協力者から外されたことは、その後に国会（文教委員会）でも問題とされました（1988年4月、1989年11・12月）。ただ、調べてみると日社学の要望書⁷⁴に、二谷先生のお名前は出ていません。

これだけではなく、何かがあったんですね。学習指導要領批判は山ほど書いていましたからね（笑）。

14-1. 一橋出版の「世界史」教科書

— 二谷先生が中心となった高校の「現代社会」と「世界史」の教科書が、一橋出版⁷⁵から発行されています。「世界史」から伺います。世界史Aは1994年度から2009年度までの3種で、世界史Bは1994年度から2002年度までの2種が使用されました⁷⁶。1994年度は「世界史」が必修科目となり、AとBになって授業が開始された年度になります。世界史Aと世界史Bの教科書はどちらも二谷貞夫・笠原十九司・油井大三郎の3名のお名前が最初に挙がっていますが、同時に作成したのでしょうか。

一橋出版には東洋史の後輩の中村幸次さんがいました。中村さんから話があって、中国史の笠原さんとアメリカ史の油井さんに声をかけました。笠原さんも東洋史の後輩になります。AとBの編集は同時です。

世界史Aのほうは、学習指導要領の項目どおりの構成を基本としていますが、絵や写真にこだわったりして、色々なものを入れています。Aは大判でした。序文の「世界史の学習をはじめるにあたって」は書きましたね。それから、「第1章 文明と風土」の「1 トウモロコシの文化」「2 馬と羊の文化」「3 海洋民の文化」というのは3人で話していて、こうなりました。

⁷³ 朝倉隆太郎「参議院文教委員会会議録について—高等学校社会科再編成との関連において—」（『社会科学研究』第40号、1992年）が当時の状況を詳述している。

⁷⁴ 1987年12月24日の教育課程審議会答申までに、1986年5月1日の第1次要望書から1987年12月1日の第5次要望書までがあった。

⁷⁵ 2009年まで存在した東京都杉並区に本社を置いた出版社。

⁷⁶ 一橋出版からは二谷貞夫・笠原十九司・油井大三郎ほかを著者として、世界史Aが、①『世界史A』、世A504、1993年2月28日検定、1994～1997年度使用、②『世界史A新訂版』、世A570、1997年3月15日検定、1998～2004年度検定、③『世界史A』、世A010、2003年4月2日検定、2004～2009年度使用の3種、世界史Bが、①『世界史B』、世B512、1993年2月28日検定、1994～1998年度使用、②『世界史B新訂版』、世B616、1998年2月28日検定、1999～2002年度使用の2種が発行された。

— 世界史Bのほうは、とてもユニークな内容で、類例のない「世界史」教科書でした。各節は「概観」と3つの独立した「テーマ」で構成され、全体で66テーマと4つの「文化の窓」があります。教師用指導書にはテーマごとに学習段階に応じた「生徒への問いかけ」が掲載されています。当時、とても話題になりましたが、検定はすんなり通ったのでしょうか。

Bは、物語世界史にしようと、鳥山孟郎さんと考えました。あちこちに呼びかけて全国各地のたくさんの人に書いてもらいました。検定は大変でした。概観の部分さえ読めば、一応受験には通るだけの内容は持っているとして売り出して、検定のときも学習指導要領にも則っていると話をしました。白表紙本や検定のときに渡された「検定意見一覧表」がここにあります。

— 拝見します。『世界史B』検定意見一覧表は10ページで、1枚目が「総論」で2枚目以降の表に76カ所に対する「意見」がついています。「1992年10月30日通知」とあり、「教科書調査官：森義信」と記されています。

「総論」に書かれているように、この日は合否保留で修正意見が出されています。読んでみると、「本書は、検定審議会の分科会をいったん通過したが、次の部会で異論が出て差し戻しとなり、再度、分科会で審議を行った。その結果、1次では不合格とせず、2次まで修正の機会を与えることになった」と書いてあります。

— 何が問題とされたのでしょうか。

（「総論」の続き）「本書の構成については検定審議会内部でも賛否両論があり、最終的には合否すれすれで検定の決定を行った」とあって、「とくに問題となったのは、概説1、物語3の割合になっている本書の構成についてである」と書かれています。また、「物語のテーマによっては内容が冗漫で、4ページを必要としないものもある」とか、「受験一辺倒の教科書から脱しようとする意図はわかるが、基礎基本がわかってこそ、よもやま話もおもしろいと感じる」ともあります。勝手なことを言っていますね。一方で最後に「…今回の申請図書の中でいちばん評判がよかった。これが世に出れば、高等学校の世界史教育に一石を投じることになるかもしれない」とも書いてあります（笑）。

— この教科書は再度の検定を経て2002年度まで使用されていますから、新課程でやめた形になっています。そして、その後は一般書として発行されています。

先生が持つにはいいけれども、生徒に持たせるには、という声はありましたね。一般

書として出版したのは、一橋出版の判断でした⁷⁷。

手元に、鳥山孟郎さんの作った世界史学習の提案という資料が残っています。導入設問、本文の内容、読後設問とあって学習を進めるのですが、いくつかある導入設問の中には、「ヨーロッパのユダヤ人は何語を話していたか」とあって、4つの選択肢として①ヘブライ語、②イディッシュ語、③英語、④現在地の言語とあります。こういった問題に取り組みながら「シオニズムとパレスチナ」の世界史学習に入っていくというものです。鳥山さんは本当に上手です。指導書には「生徒への問いかけ」や「導入例」として入れたのですが、指導書よりも教科書に組み込めばよかったと思っています。世界史教科書もこれからはワーキングペーパーのようなものになればいいと思います。

14-2. 一橋出版の「現代社会」教科書

— 次に、「現代社会」の教科書について伺います。一橋出版の「現代社会」教科書は1985年度から2009年度までに6種が使用されました⁷⁸。高校社会科1年次4単位必修のときから公民科2単位選択までの時期になります。「二谷貞夫ほか」の教科書としては、「世界史」よりも先に発行されて、そして長く使用されました。

これも一橋出版の中村さんから声がかかって、教科書を作る話になりました。それで、知り合いの6名の人たちに呼びかけましたが、全民研（全国民主主義教育研究会）と地教研（地理教育研究会）と歴教協（歴史教育者協議会）が一緒になって書いた感じになっています（笑）。

— 「現代社会」も色々と変遷がありましたが、最初に「現代社会」の教科書を作るにあたって、考えられたことはどのようなものでしたか。また、二谷先生はどこを書かれましたか。

大枠は学習指導要領の通りで行こう、と言っていたと思います。ただ、世界や世界史を意識するというのをいつも念頭に置いていましたから、現代の問題もできるだけ上原専祿の課題化認識を意識して、と考えていました。私は「はじめに」とか、いくつかを書きました。「世界の諸地域と文化」の項目については、上原専祿を考えて9地域で書き

⁷⁷ 二谷貞夫ほか『忙しい現代人のためのものがたり世界史—65篇—』一橋出版、2003年。

⁷⁸ 一橋出版から「二谷貞夫ほか」を著作者として現代社会が、①『高校現代社会—現代を考える—』、現社036、1984年3月31日検定、1985～1988年度使用、②『高校現代社会改訂版—現代を考える—』、現社061、1987年3月31日改訂検定、1988～1991年度使用、③『高校現代社会三訂版—現代を考える—』、現社083、1990年3月31日改訂検定、1991～1994年度使用、④『新高校現代社会』、現社508、1993年3月31日検定、1994～2002年度使用、⑤『新版高校現代社会』、現社522、1997年3月31日検定、1998～2004年度使用、⑥『高校現代社会—現代を考える—』、現社011、2002年3月20日検定、2003～2009年度使用の6種が発行された。

ました。「東アジア世界」では「遠くて近い国ぐに」を取り上げるためにハングルを入れたりしました。ここで使った「北ユーラシア世界」や「中東世界」という言葉は、学習指導要領では使いませんよね。今の現代社会にはこういう項目はありますか。

— 「世界の諸地域と文化」は、その後になくなりました。「現代社会」は学習指導要領でも「政治・経済」に近づいています。私（大木）は「現代社会」5年目の年に高校に入学して授業を受けましたが、そのときの先生たちは現代社会というディスプリンや根拠はないと不平を言っていました。でも、教師になって「現代社会」の授業をしてみると楽しいんですね。「世界史」以上に枠はないし、どう取り組んでも文句も来ないしで。二谷先生の当時の文を見ると、「合科された科目としてでなく、現代的・総合的視点で教師も生徒も真剣にとりくめているのだろうか」と危惧を述べながら、現代社会という名称の新科目に大変に魅力を感じるとお書きになっています⁷⁹。「現代社会」はようやく定着してきたと思ったら、総括もなく、廃止される予定です。二谷先生が感じられた魅力とは、どのようなものでしょうか。

先ほども言いましたが、現代の課題に向き合える科目の内容だろうと思っていたからです。そういうやり方をしない限りは、教え込みになってしまって、つまらないものになりますし。高校では、いちばん社会科らしい科目ですね。

— 一橋出版の「現代社会」教科書では、執筆者のお一人の高嶋^{のぶよし}伸欣先生が教科書検定に関わって国を訴えた高嶋教科書裁判⁸⁰がありました。

高嶋さんは筑波大学附属高校にいて私の同僚でした。1992年度の検定のときに削除は不服であるということで執筆者から抜けて裁判を起こしました。ですから、この教科書（1994年度以降使用）からは高嶋さんの名前はありません。裁判には一橋出版の中村さんは編集者として関わりましたが、他の執筆者は関係しませんでした。

— たしか福沢諭吉の脱亜論が問題になっていたと記憶しておりますが。

このときの資料を見ると、「テーマ」（各節ごとの見開き）の中の「アジアの中の日本」で、福沢諭吉の脱亜論と勝海舟の氷川清話と比べさせたものでした。脱亜論の扱いかたに意見が付き、脱亜論をやめて福翁自伝に変えるようにという話もあったようです。そ

⁷⁹ 二谷貞夫「現代認識の方法」（前掲『世界史教育の研究』）。初出は「国際理解を深めるために」（『ひとつばし情報』No. 17）で、執筆は1982年3月である。

⁸⁰ 高嶋教科書裁判（横浜教科書訴訟）：高嶋氏が1993年に提訴し、1998年の一審で原告側が勝訴、2002年の二審で被告の国側が勝訴し、原告側が上告したが、最高裁は2005年に上告を棄却、判決が確定した。

れから「現在のマス・コミと私たち」という「テーマ」でも内容が問題になりました。高嶋さんは、書き換えはできないと怒って、執筆者から抜けることになりました。

15. 新潟県上越での活動

― 二谷先生は2004年3月に定年退職されるまで約17年間、新潟県上越にいらしたわけですが、この間のことをもう少し伺います。二谷先生が韓国との歴史教育交流を本格化したのは、上越教育大学に着任されて加藤章先生と一緒してからとなりますか。

そうですね。加藤先生はイウォンスン⁸¹先生と早くから交流を始めて、韓国へも行っていました。ただ、比較史研でも横田さんたちが韓国にけっこう早くから行っていました。上越教育大学では、附属中学校の韓国との交流や韓国教員大学校（忠清北道清州市）との交流も始めました。

― 二谷先生の退官記念の『21世紀の歴史認識と国際理解⁸²』には中国や韓国の先生がたも多く寄稿されています。これは1997年に上越教育大学で開催したシンポジウム「東アジア地域における新しい歴史表象をめざして―歴史研究と歴史教育との対話―⁸³」などの二谷先生の活動が反映したものと存じますが。

シンポジウムは、当時あった対外活動についての文部省の経費がなんとか取れて開催できましたが、けっこう大変でした。これができたのは、比較史研にいた西川正雄さんの一言があったからでした。あるときに西川さんが「東アジアの集会在上越なんかでできるわけがない」みたいなことを、ちらっと言ったことがありました。これが頭にあって、「それならやろうじゃないか」と、躍起になって頑張りました（笑）。韓国との交流は、退職後も続きました⁸⁴。

― 私（茨木）も関わっています上越教育大学社会科教育学会の大会にはご退職後も協力して頂いていますし、二谷先生が会長もされた日本社会科教育学会（日社学）でも全国大会を上越教育大学で2回開催しました。

1989年8月の大会は日社学と全社学（全国社会科教育学会）の合同大会でした。朝倉

⁸¹ イウォンスン（李元淳）：1926～2018年、歴史教育学、西学史。

⁸² 二谷貞夫編『21世紀の歴史認識と国際理解―韓国・中国・日本からの提言―』明石書店、2004年。

⁸³ この国際シンポジウムは1997年9月26～28日に上越教育大学において日本・中国・韓国・ロシアの研究者を招いて開催された。浅倉有子・上越教育大学東アジア研究会編『歴史表象としての東アジア―歴史研究と歴史教育との対話―』（清文堂、2002年）としてまとめられている。

⁸⁴ 二谷貞夫研究代表・梅野正信編集責任『日韓で考える歴史教育―教科書比較とともに―』（明石書店、2010年）などがある。

隆太郎会長と平田嘉三⁸⁵会長でした。私は2002～2003年度に日社学の会長をしましたが、2001年9月に大会をやりました。大会テーマは「多文化共生時代の社会科教育」でした。

— 上越の民間教育団体にも多く参加されていたと伺いました。

江口武正先生の「上越教師の会」に参加しました。江口先生のことは『村の五年生』で知っていました⁸⁶。最初の挨拶で「上越には、江口先生に会うために来たんです」と言ったら、参加していた人たちから「こういう人が上越教育大学に来たんだ」と言われました（笑）。「新潟県社会科教育研究会」にも出ていました。歴教協の人たちとも仲良くなって、南新町の私の自宅に5～6人が集まって勉強会をしていた時期もありました。忘年会もやっていました（笑）。

— 歴教協はそれほど盛んな場所ではなかったのですか。

そうですね。上越に来たばかりのとき、ある会で「歴教協の二谷です」と挨拶したら驚かれたことがありました（笑）。盛んなのは全生研（全国生活指導研究協議会）のほうでした。民教連（日本民間教育研究団体連絡会）というのが東京にありますが、上越で活動している民間教育団体の集まっている会もあって、何年ごろでしたか、何回か講演などでその集会に出席したこともありました。

— 教育や研究以外にも何か印象に残っていることはありませんか。

上越映画鑑賞会に参加したり、市役所の男女共同参画の委員になったりしました。湾岸戦争（1991年1月～）のときには、銀行の前のバス停のところで署名を集めましたが、「大学の先生がそういうことをするものではない」と、自宅に匿名の電話があったこともありました（笑）。

16. 改めて世界史教育について

— 長く世界史教育に関わっていらして、一番の課題と言いますか、手ごわかったというものは何でしょうか。

近代化でしょうね、手ごわい相手は。ということは、ヨーロッパ中心史観なんです。19世紀的ヨーロッパ的世界史像というのは、ひとつ教えなくてはいけないわけです。そ

⁸⁵ 平田嘉三：1925～2008年、西洋史・世界史教育。

⁸⁶ 江口武正『村の五年生—農村社会科の実践—』新評論社、1956年（国土社、1992年）。関連して、二谷貞夫・和井田清司・釜田聡編著『「上越教師の会」の研究』（学文社、2007年）がある。

れで、その持っているヨーロッパ的世界史像の暴力があるとすれば暴力を、どういう面で暴力的であるかを明らかにしなければならない。それは逆に言えば、アジアとか、アフリカとか、地域から見直すということになるわけです。

— そのような中で世界史教育をどのように考えたらよいとお考えですか。

世界史教育が培うものは何かを考えるしかないですね。そうすると、やはり批判精神でしょうね。なんだかんだと言っても、歴史を見るということは、批判的な力が付くか付かないか、ということに関係するわけですし、今現在を見るときに歴史的なものを見るということになるわけですから。

— そのような批判精神をどのように養うかという点はいかがですか。また、関連して、世界史教育研究の方向という点ではどのようなことがありますか。

難しいですね。ですけど、何というか、自分で日々ニュースを見たり聞いたりする中で、何でも受け入れられるわけではないですね。では、受け入れられないのは、なぜなのかということを、結局は突き詰める力があればいいのではないか、という気はします。それは世界史教育でも、もちろん歴史教育でも培われると思います。

世界のつかまえかたのようなものを話す必要はありますね。どのように世界を捉えたらいいいのか、これまでどのように捉えてきたのか、世界の捉えかたの枠組みの変わってきたといった世界史教育史の中の世界の捉えかたを少し調べてみないと、やはり現代世界をうまくつかまえることができないと思います。

— 2022 年から実施予定の「歴史総合」については、どのようにお考えですか。

どのようにやるのかですね。私は、上原史学と合致するのならば歴史総合もいいかなと思います。日本史の中の世界史とか、世界史の中の日本史とか、その統合的な把握とか、そのような方向から生まれてくるのならば、期待できます。ただ、やりきれないから時間つぶしで現代史だけやるとか、結局は中学校の歴史を高校版に作りかえるだけとかでは、どうなのかなと。怖いのは、日本史中心になることですね。

17. これからの取り組み

— 二谷先生がメールで配信されています「白樺湖通信」は 1000 号を超えています。日本や世界各地の情報にコメントをつけての通信は、「ブナ林便り」の吉田悟郎先生の後を継ぐものと思います。吉田先生は「ブナ林便り」は自分の世界史実践だと話していましたが、二谷先生はいかがですか。

同じですね。真似ているだけです。自分のためにやっていて、人に押し付けている感じですね（笑）。今は短いものをなんとか発信しています。

— これから取り組んでいきたいことは何でしょうか。

世界史教育実践史のようなものを書き始めようかと思っています。世界史教科書作成に関わって、どんなことをしてきたかということを振り返ってみたいと考えています。

— 長い時間、お話をお聞かせ下さいまして、本当にありがとうございました。

後記

何度にもわたるインタビューのお願いを快くお引き受けいただき、そのつど多くの貴重なお話を伺うことができた。また、歴史教育や社会科教育の歴史に関わる、いくつもの重要な資料も拝見することができた。地域・日本・東アジア・世界を貫き、結び付ける歴史と歴史教育に関わる長年にわたる追究のお話は、大変に興味深いものであった。ただし、二谷先生の活動のすべてを、ここに十分に盛り込むことはできていない。聞き手の力不足を痛感するばかりである。

最後に、原稿をまとめる段階においても多くのご教示や資料のご提供をいただくなど、多大なるご協力を賜りました二谷先生に、心から御礼を申し上げます。

（注記等に関して、様々な文献やホームページの情報を利用させていただきましたことを申し添えます。）

（文責：茨木智志）